

遭難ニ関スル調査書類

1482

軍務局

大正五年七月二日午後九時四分秋田局發

發信者 秋田縣知事

受信者 海軍大臣

電報譯

縣下土崎港ニ石油積込ノ為メ萊港ニ
ル依世保鎮守府汽船志自岐丸(五七〇〇
噸)乗込員海軍中佐以下一六名ハ本
日午後二時半頃暴風ノ為メ南秋
田郡船越町ヨリ二五〇間ノ沖合ニ堅
礎セリ船體及乗込員ニハ異状ナキモ
風浪高ク救護ニ盡力中ナリ



海軍



遺難

軍務局



秋田縣知事電報

七月廿日午後九時四十分發

縣下南秋田郡土崎港ニ石積込ノ為
未航セル佐世保鎮守府汽船シジキ丸
(五七〇噸)乗組員海軍中佐以下百六名
ハ本日午後二時半頃暴風雨ノ為南秋
田郡取越所ヨリ二五〇間ノ沖合ニ坐礁セ
テ船体及乗組員ニハ異状ナキモ風浪
高ク救護ニ盡力中ナリ

軍務局

大正五年七月二日午後二時一〇分宇田局發
大正五年七月二日午後四時四五分本省局着

發信者 軍艦 音羽

受信者 海軍大臣

電報譯

志自岐指揮官桑、我今朝九時半土崎到着
ノ頃ヨリ暴風次第ニカヲ増シ沖合ニ航行セント
百方カヲ尽スモ其ノ甲斐ナク刻々坐洲ニ瀕シツ
、アリ現狀ノ暴風ギルヲ俟ツノ外ナシ右報告ス當
地晴雨計二九、四一稍々上昇風力八乃至九

3

海軍

1485

軍務局

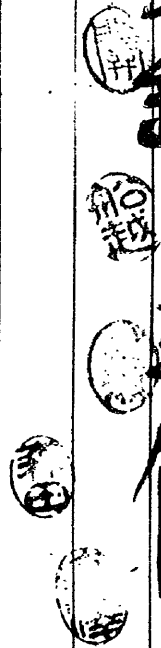
海軍大臣宛

秋田お気事

三〇年五月二十五日

海軍

昨夜克志自岐浪静
了る所侯身三腕陸上ト
傳絡モ船底約八尺砂牛
入目下引却準備中



(秋田納)

1486



軍務局

大長花

大要司官

海軍

三ノ手石の付する着電

志自收指揮官電

今朝天候回復ヲ待テ今ヨリ離海

ヲ試シトス船体の損傷一見其状

認メス船材氷線下五呎ノ處ハ

計ラレズ船軸氷線ノ所ヲ切斷セ

居ルヲ見セリ應急修理然

ルハ御取計ニテ

(笈田納)

(11)

[Handwritten signature]

電報

大正五年七月三日

電報

大正五年七月三日

了道行志自...
中二大漢丸...
了道行志自...
中二大漢丸...
了道行志自...
中二大漢丸...

下船政局

第四...

[Circular postmarks]

第一課

[Handwritten mark]

七月三日
官房受

海

[Circular postmarks]

(花崎 拍)

1488

五
7. 3

三
5. 7. 3
受接

二
7. 3

5. 7. 3
受接

軍令部
艦政局

軍務局

大正五年七月三日午後五時五分羽後船越局發
大正五年七月三日午後六時一五分本省局着

受信者 大臣
發信者 志自岐指揮官

電報譯

七月二日午前八時土崎ヲ距^約二十哩ニ
到着ス當時前夜來ノ猛雨ニテ推測位
置ノ外判明セザリシモ同時刻ニ於テ男鹿
半島、惠帽子岬并ニ寒風山ヲ識認シ得
タルヲ以テ船位ヲ確定ス當時風向南東
ニテ晴雨計ニ九、四四吋ヲ示シ風力四乃至五、
波浪甚シカラザリシヲ以テ土崎沖碇泊ノ
見込ヲ以テ同位置ヨリ土崎沖ニ航進セリ

海軍

然ルニ雨ニ猛雨ノ冒ス所トナリ距岸四哩
 ノ所ヨリ半速續テ微速トナシ推測ヲ以テ
 前進シツツアリシガ風七乃至八トナリ漸次
 南東ニ移動セントスルヲ認メ且ツ水深十三
 尋ニ達シタルヲ以テ此ノ際投錨ヲ断念シ、
 沖合ニ航進セント欲シ操舵回頭ヲ試ミ
 然リシモ風浪漸次高大ヲ極メ推進器空
 轉シテ回頭意ノ如クナラス茲ニ於テ投錨
 シ汽力ト共力シテ船首ヲ風浪ニ立テントシ
 タルモ錨鎖横ニ緊張シテ遂ニ切断セラレ百
 方汽力ヲ使用シタルモ風浪ニ向フ能ハズ刻
 一刻風壓ヲ受ケ船越方面ニ壓流セラレシ
 トスルヲ以テ後進全速ニテ船尾ヲ風浪ニ樹

海軍

(花崎純)

テ坐洲ヲ免レント試ミタルモ推進器ノ空轉ハ
 荒岸ノ壓浪ニ溯ルコト能ハズ少許宛海岸ニ
 壓進セラレ最早到底坐洲ヲ免レガルヲ認メ
 タルヲ以テ重油口ニ漲水シ海岸ノ砂泥ヲ
 撰ビ午後三時五十八分船越沖距岸〇・一五哩
 ニ尋ノ所ニ坐洲ヲ敢行シ尚引續キ後進全
 速ヲ以テ船尾ヲ風浪ニ向ケワツアリシモ復
 水畧泥沙、海草ノ為メ閉塞セントスルヲ以テ
 全力重油口ノ注水ヲ行ヒ、機関ヲ停止シ尚
 前後ニ投描シ船體ヲ該所ニ膠着センメタ
 リ幸ニシテ船體直立ノ儘風浪ニ立ツエトヲ得
 村人ノ厚意協力ニテ陸上トノ通信ヲ得、夜末
 應急見張ヲ嚴重ニシ今朝ニ至ルマデ何等異

(花崎納)

海軍

| | | |
|--|-----|-------|
| 狀ナカリシモ時々波浪ノタメ船體ノ衝撃ヲ感 ジタリ今朝取調ベタル所スタルンポスト及ビ舵軸 切断本船ノ手ニテハ應急ノ修理不可能ナルヲ 発見セルモ幸ニ天候恢復セシヲ以テ今ヨリ排 水離洲ヲ試ミン免モ角 川 灣ニテ爾後ノ 修理ヲ待タントス | (終) | (花崎船) |
|--|-----|-------|

海軍

艦政局

軍務局

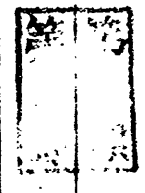
大正五年七月三日午後四時五十分 局發

受信者 大臣

電報譯

發信者 志自岐指揮官

本船スタルンポスト并ニ舵軸破損單
獨航海不可能ニツキ修理材料搭載
ノ上救難船ノ御派遣ヲ乞フ本船ハ
今ヨリ極力南洲ヲ試ミントス



海軍

軍務局

大正五年七月三日

日午後二時四十分
海軍局發

受信者大臣

電報譯

發信者志自岐指揮官

今朝來自力離洲ヲ企テシモ破斷セル
舵軸推進器ニ觸レタルタメ其見込ナシ
有力ナル曳船派遣ヲ乞フ

海軍

技術本部
艦政局
別

軍務局

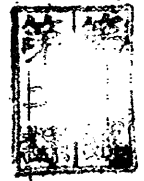
大正五年七月三日 午後九時三十分
本局發

受信者 大臣

電報譯

發信者 大湊要港部司令官

第一大湊丸、目下、天候上不向ト思
ル、ニ付、芦崎丸及第二大湊丸ヲ今九
時志自岐遭難地ニ出發セシム



海軍

1495

軍務局

艦政局

技術部

大正五年七月三日 午後二時三十分 發信者 舞鎮司令長官 局發

受信者 海軍次官

電報譯

牛尾造 船少監 = 潜水工五名ヲ附シ
四日午前七時四十分 汽船ニ乗リ
出港セシム

第一號

海軍

1496

共覽



海軍省
局長

第一局長

局長

海軍

大正五年七月四日 正午十分 電 軍務局長

吉目岐指揮官宛電

救難準備為ノ於件至急電報了度

一坐洲ノ精確ナル位置及船首方向

二本船周囲ノ水深及底質

三望見^{津路}近寄リ得ル最^大巨島

四本船ノ吹程泥中ニ埋レ居ルヤ前部後部ニ分テ電報了ト

五坐洲位置ヨリ外海ヘノ航路上ノ水深状況

六或船沈没ノ事ニ或部ニ得ル見込ナルヤ

七重油庫ノ排水ニ差支ノ有無

艦政局長

本件分リ居令丈ニテ覽^{及排水}次電報了度

(安田納)

軍務局

別

No. 657

大正五年七月三日 午前十時三十分 午後一時十五分 海軍田局 局發

發信者 大湊要港部司令官

受信者 海軍大臣

電報譯

志自岐指揮官發電

坐洲位置置ハ海岸ヨリ約一 cable 半ニ

シテ砂泥ナリシカ前後ニ投錯ス、重

油タンクニ漲水シ船膠着

現狀維持シワアリ、今ノ所船體機関

異狀ナシ陸岸トノ通信ハ取り得タルモ

風浪引續キ險惡、此儘天候回復ヲ待

テ離洲ヲ試ムル積ナリ

終

海軍

大正
四年

急

供覽

五

軍令部長

供覽

軍務局長



第一課
第二課



局員



軍務局長

横鎮参謀長宛電

志自岐故難、為要之ハ津輕ヲ船川湾ニ派遣セラルルハ其ノ議
了為念内報ス

艦政局長



第二課長



教育部長



第一班
第三班



大正四年

七月四日

海

軍官房受

七月四日

文田納

海軍省

艦政局

軍務局

副官

大正五年七月三日 午前十時五分 函物大所局着

受信者 海軍省

發信者 松田助八

電報譯

貴省より船三千噸土鑿船越ニ
ラ座礁より由弊所救助船、救助道
具、熟練技師職工完備ニ了ル、
救助御下命ニ與リタニ。返

有副官

海軍省より村松電報局より七月三日午後十時十分發電済

七月四日早十時十分發電済

函件未開
松田助八
船會社
船會社
船會社

政艦 5.7.4 受接

5.7.4

1500

軍務局



受信者 大臣

電報譯

発信者 佐鎮 長官

大正五年七月三日 午後十一時三十五分 佐鎮 局長 發着

去自政指揮官午第十時三十五分發電
坐洲位置海岸より約一ケーブル半ニシテ
砂泥 錐ヲ前後ニ投錐ニ重油ヲタンクニ漲
水ノ船ヲ膠着セシメタル儘ニ現状維持シテ
ワアリ今ノ所船体機関ニ異状ナシ陸岸ト
通信ヲ取リ得タルモ風浪引續キ險悪ナリ
此儘ニ天候回復ヲ待テ離洲ヲ試ムル積
ナリ

(子)

海軍



No. 660

軍務局

大正五年七月三日

日午後七時

十分

能登保局發

(加藤納)

受信者大臣

發信者

佐鎮長官

電報譯

志自岐土崎ニ向テ航行中七月二日土崎沖ニ於テ暴風ニ會シ同夜船川灣船越海岸ニ舟ノ所ニ坐礁多ク風風キ次第自力ヲ以テ難航ヲ試ムル等定テ右旨同船指揮官ヨリ報告ニ接ス取敢テ不報告ス

(3)



海軍

1502

大正五年七月三日

日起案
起案者
捺印

七月三日

日發付
發付掛
捺印

發付後起
案者捺印

7. 3/6

艦政五
7. 4

(主務)

軍務局長

第一課長

局員

局部
受月日
發月日

大佐

副官

大南

參事官

船越

次官

參事官

艦政局長

中野

第二課長

第四課長

加藤

加藤

| | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|
| 軍介 | 水路 | 臨建 | 教育 | 造兵 | 技本 | 艦政 | 司法 | 經理 | 醫務 | 人事 | 軍務 | 官房 | 局部 |
| | | | | | | | | | | | | 官房受 | 受月日 |
| | | | | | | | | | | | | 官房受 | 發月日 |

至急電報

大正五年七月三日

次官

七月三日
星野三郎の令發艦政

第一、第二、第六、第九、第十、第十一、第十二、第十三、第十四、第十五、第十六、第十七、第十八、第十九、第二十、第二十一、第二十二、第二十三、第二十四、第二十五、第二十六、第二十七、第二十八、第二十九、第三十、第三十一、第三十二、第三十三、第三十四、第三十五、第三十六、第三十七、第三十八、第三十九、第四十、第四十一、第四十二、第四十三、第四十四、第四十五、第四十六、第四十七、第四十八、第四十九、第五十、第五十一、第五十二、第五十三、第五十四、第五十五、第五十六、第五十七、第五十八、第五十九、第六十、第六十一、第六十二、第六十三、第六十四、第六十五、第六十六、第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百

1503

三船志自の、難海に援けせしむる儀令

申

志直の御打立
たしめたる御打立
御打立

(たしめたる御打立)

軍務局

No. 653

大正五年七月二日午後八時一分船橋無線局發
大正五年七月二日午後八時四十分海軍局着

發信者 志自岐

受信者 海軍大臣

電報譯

我今船川灣船越海岸尋ノ所ニ坐
洲目下機関ヲ運轉(船尾)ノ風向ニ立テ
ワッアリ今ノ處停止ニ風浪險惡他ノ作
業頗ル困難ナリ極力横倒ヲ防グ
凡減退シワ、アリ風向南西方ヨリ漸
次西方ニ偏シ晴雨計稍々登リ船體
輕荷ノ状態ニナルモ尚海水八百噸塔載
シ居レリ天候回復ヲ待チ自力ヲ以テ

海軍

1505

| | | | | | | | | | | | | | |
|----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|-------------|
| 海軍 | | | | | | | | | | | | | 離洲セント殿 下 |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |

(終)

(花崎納)

次官



軍務局長



第一課長



局員



海軍

大正五年七月四日午後四時三十分電 軍務局長

佐藤参謀長宛電

南

七月四日
官房受

志自岐救助、為ノ差有リ芦崎丸及カシ大津丸ヲ大津多浪境
ニ又空洲状況刻々為難宜多枝傍官ヲ現地ニ派遣セヨク
空洲在、修理ニ難鴨ニテ施行ノ予定也

尚今后必要ニ應テ救助作業力、救助航派等、甘ニ且ト取調中

(笈田納)

一冊 報

第

五

吉野子七月四日 報

大要

其編丸及加丸大澤丸林竹丸等面要員ヲ始行キヤ
又今後在ノ地ニテ其ノ事ヲ得テ其面要員ヲ電報アリ後

吉野子七月四日 報

大要

救難作業ニ取リ掛ルニ迄ハ十分艦内ニ至リ候クニ
是ノ際面ヲ確立シテ其ノ事ヲ得テ其面要員ヲ電報アリ後
依テ其面要員ヲ電報アリ後

軍務局

No. 667

大正五年七月四日午後一時四五分
大正五年七月四日午後三時十五分
海軍局着

受信者 大臣

發信者 佐鎮長官

電報譯

七月三日朝天候恢復セルヲ以テ離洲
ヲ試シントセシモ遠淺サニテ到底
自力離洲ノ見込ナシ昨夜風浪ノ為
ニ船尾材及舵軸切断シ離洲ノ
状態ナリ推進器回轉スル際之ニ觸撃
又ルノ恐アリ自力航行不可能ニ付キ一先
ツ大湊要港部ヨリ葦埼丸第二大湊丸ノ
来着ヲ待テ雨後ノ處置ヲ採ラシメ

海軍

1509

| | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|---------------|-----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| ト尚舞鶴海軍工廠ヨリハ造船兵官及職 | 工ヲ派遣スル旨通知アリタリ | (終) | | | | | | | | | | |
|-------------------|---------------|-----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|

海軍

(花崎)

志白紙段二張ノリ

軍医船志白紙三箇ニ付



海軍

錨

ハロー 二枚 各六〇センチメートル

アクリル 一枚 一六〇センチ

ヤング 一枚 七〇センチ

鋼索

ハロー 鋼索 三〇分 二〇分

アクリル 鋼索 四〇分 四〇分

(茂田 納)

手
以
為

大正 五年 七月 四 日 午 三時三十五分
大正 五年 七月 四 日 午 二時四十五分
海軍局 發
海軍局 着

發信者 志自岐指揮官

受信者 次官

電報 謹

森

今朝調査ノ結果推進器翼一個外人至
部折損シ居ルヲ発見セリ 庶急修理ハ
到底当長ニテハ不可能ナルニ付離洲後
適當ノ曳船ニ依リ舞鶴ニ回航入渠修理
ヲ要ス 又本船ノ離洲ニ際シテ船尾ヲ沖
合六百メートル間一帯二昇由外ノ砂泥
ニシテ本船ノ構造上船尾ヲ浮上セシムルコト
困難ナルヲ以テ吃水ニ慮ルニ付船尾方向ヲ

海軍

後謀タルヲ最ニ適當ナル方法ト思考セ
 ラル。本件ニ関シテハ救難船ノ來着ヲ待
 4 熟議スルニ目下本船砂泥ニ安着
 ン居ルモ今後ノ天候ニ對シテハ横倒ノ慮
 ナシトモ不可成。迅速ニ離洲ヲ行フヲ要ス
 尚船川ノ梁港ニホ未ダ後謀船ナキニ對
 湯小橋ニ由務為、後謀船アル後
 溝船派遣ニ関シテハ佐鎮長官ニ電報シ
 置シモ尚御慮ヲ乞フ。

(了)

(加藤)

海軍

海軍

大正五年七月四日 午後 時 分 局 著

發信者 志自岐指軒友

受信者 軍務局長

電報譯

及

一、三十九度五十三分二十秒百三十九度五十五分四十秒船首北

二、前部十一呎中央十一呎後部十一呎底質砂

三、南ヨリ西方三尋界線迄最近巨離六

〇〇米其ヨリ東方ハ浅シ五尋界線迄ハ約

二三〇〇米

(花崎總)

1514

四、中央約二呎後部約五呎砂中ニ埋レ前部

ハ埋レオラス

五、遠淺ニシテ六〇〇乃至一〇〇〇米ニ尋内外其

ヨリ三尋界線ニ達シ約二三〇〇ニテ五尋

トナル底質一帯ノ砂泥ニシテ危険物ナシ

六、本船ノ構造上船尾ヲ浮上セシムルコト困難

ナルニ付曳船ノミニテハ引却ノ見込ミナシ

船尾方向ヲ後漂シ申出スヲ最良ト認ム

後漂船淤着ヲ乞フ

七、差支ナシ

八、損所ハ推進機器翼一枚ノ外全部折

(坂田總)

断スタニホウト舵軸折断後部水艙漏
水箇所アリ入渠修理ヲ要ス

九、船ハ砂底ニ安着シ傾斜ナシ

十、排水ニ得ル水約一〇〇〇屯 重油ニ七〇屯

ヲ搭載ス

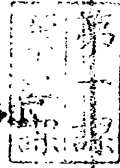
尚本日の大隈ヨリ救難船来着ノ旨了付

今後ノ模様逐次電報スヘシ

(笠田納)

軍務局

修船局



局員

内務大臣

秋田縣知事

七月三日午後十一時發

昨電々汽船シジキ丸ハ風浪鎮了リ危險界

ヲ脱シ陸上ト連絡々々モ取返約八尺砂中ニ入

リ且下引下シ準備中ナリ

第二課
第四課



内務局 受接

1517

7. 4

Table with multiple columns and rows, containing faint text and numbers. The text is mostly illegible due to low contrast and scan quality. Some faint characters are visible, such as '1571' in the top row and '1572' in the second row. The table appears to be a ledger or record book.

(原器地)

1518

船

起案郵紙

大正五年

七月

三日

起案者
捺印

信

七月三日

日發付

發付掛
捺印

發付後起
案者捺印

局部 受月日 發月日

信

大官廳

艦政局長

第二課長

信

副官

信

參事官

信

軍務局長

信

信

| | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 軍令 | 水路 | 臨建 | 教育 | 造兵 | 技本 | 艦政 | 司法 | 經理 | 醫務 | 人事 | 軍務 | 官房 | 局部 |
| | | | | | | | | | | | 七ノ四 | 七ノ三 | 受月日 |
| | | | | | | | | | | | 七ノ四 | | 發月日 |

七月三日 午前五時 急電濟

水

電信

古の五年七月三日

海軍 佐友

運送船志自岐秋田縣下船川濱船越海岸

號番

1519

信

276 / 7.4

為るべきこと
は、
マ
に
あ
る
し

ヨリ約一ヶ月間、半、沖合砂泥、
概圖、異状ヲ認め、ガレモ、
航機軸切斷セルヲ發見
航機骨推進器等、損傷不明ナリ
航機方貴府、訓令其旨先以テ
急電技術方同地、
電報セヨトシ、又シ
在候年。

(終)

藤原 納

起案鄞紙

船

大正五年七月五日 日起案 起案者 七月五日發付 發付掛 案者捺印 發付後起

艦政局長 (中)

副官

大 天官 (節) 參事官

第二課長

第三課長

第五課長

第四部 副官

第一課長

第二課長

經理局長 (勝)

火野

電訓

七月五日早三時三十分發電

大正五年七月五日 海軍大臣

第一鎮司合長友平

運送船志自收 本月二日秋田縣船川廣之坐

號番

| | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|------|------|
| 軍令 | 水路 | 臨建 | 教育 | 造兵 | 技本 | 艦政 | 司法 | 經理 | 醫務 | 人事 | 軍務 | 官房 | 局部 |
| | | | | | | | | | | | 七月五日 | 七月五日 | 七月五日 |

政艦 5.7.4 受接 276.2

1521

洲也、其符、於予、之、離、洲、並、之、修、理、方、取、計、
フ、之、但、申、船、ト、シ、テ、軍、艦、津、輕、ヲ、派、遣、ス、ル、豫、定、
ナリ

電信

七月五日午後三時發
近藤

大正五年七月五日

海軍大臣

佐鎮司令長官
大要司令官

運送船志自岐、離、洲、並、之、修、理、方、左、一、通、舞、鶴、鎮、守、
所、司令官長官ニ電訓也

前案ノ電訓全文

(終)

電信

七月五日 午後三時 東京 電報局



古心五年七月五日

海軍大臣

志自岐指陣友アキ

其船離洲並修理方左ノ通舞鶴鎮守府司令
長官ニ電訓セリ付与心得るべし

前ノ案電訓全文

(終)

備考

大湊要港部ヨリノ訓ノ電ニ依リ芦埼在及カニ大湊在リ
遣セリ同船ニ扱手及職ノ業ニ依リテ思考スルモ
業ハ舞鶴ニ移リ擔當セリ方然レトト認ム

事

五

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|

普通密

庶務造兵造船造機需品會計案起月日者起案

艦政部長 (中)

第二課長

部長 (印)



艦政部長

電信 舞之廊長宛

志自岐ハ舵軸並ニ船尾材破断シ居リ自力難
洲ヲ企テシモ破断セシ舵軸ガ推進器ニ触レタ
タメ其見込トシ救難船及曳船ノ救難可ク
望ミテ船尾材ヲ準備セラルベキモ曳出シ材
料トシテハ成ニベク大ニ錨及強力ナルホー
ルシ多敷必要ナルベシト思フ多ク
為メ

(終)

發送大正五年七月五日 番號

午前三時五分發電

艦政船第 〃 〃 號

添付

淨書

政艦 5.7.4 受接

1525

起案鄧紙

大正五年七月五日

起案者 森田

七月五日發付

發付掛 捺印

發付後起 捺印

案者捺印

大臣

齊

軍務局長

第一課長

局長

局員

次官

參事官

副官

大省

參事

電報

大正五年七月五日

青森縣知事

次官

七月五日午後二時 發電齊

號番

船川灣坐洲セル海軍運送船志首級引却ノ為

| | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|-----|
| 軍令 | 水路 | 臨建 | 教育 | 造兵 | 技術 | 艦政 | 司法 | 經理 | 醫務 | 人事 | 軍務 | 官房 | 局部 |
| | | | | | | | | | | | | 七月五日 | 發付日 |

1526

後葉形、必要アリきれば、傳用し得、其受葉形、
 リヤ又、其受葉形、其受葉形、其受葉形、其受葉形、
 一、後葉形、其受葉形、其受葉形、其受葉形、其受葉形、
 二、舟形、其受葉形、其受葉形、其受葉形、其受葉形、

海軍

發給了

軍務局長

近藤長

乃久

幸

七月九日

軍務局長

午前二時廿分發電

志自岐指揮官宛電

其地ニ借上ケ得ハキ緊要器具・国平船其他ノ
船舟アリヤ

(笈田納)

下
供
電
機



軍務局長
第一課長

司令 森田

海
七月五日
官房受
6.7.

大正五年七月五日
海軍大臣 嶋田繁太郎

由本館の所記した通り

社内の事、坐るを海軍大臣の所記した通り、自派の
信託船、必要あり、要するに、自派の信託船、
供用之、必要あり、自派の信託船、

一、信託船、種別及、能力

二、社内の事、自派の信託船

電報

午後二時十分、電報

1529

電 報 信 紙

供覧

| | | | | | |
|-----|----|-----|-----|---------|---|
| 局 着 | | 局 發 | | 名氏所居人信受 | |
| 取扱者 | 受信 | 付午後 | 付午後 | 第 | 局 |
| | 午後 | 後 | 後 | 二 | 二 |
| | 九時 | 八時 | 七時 | 日 | 號 |
| | 分 | 分 | 分 | | |
| | | 字 | | 官報 | |
| | | 局 | | 第 | |
| | | 課 | | 指 | |
| | | 長 | | 東京局員 | |
| | | 官 | | 事 記 | |
| | | 長 | | 番着 | |
| | | 長 | | 信 | |
| | | 長 | | 紙 | |
| | | 長 | | 名氏所居人信受 | |
| | | 長 | | 第 | |
| | | 長 | | 八 | |
| | | 長 | | 號 | |
| | | 長 | | 印附日信着 | |
| | | 長 | | 0. 7. 5 | |
| | | 長 | | 電務局發受 | |

河地大佐に電報を打たせしむる事

海軍大佐河野左金太本日
午後貴省へ出頭ノ旨
七月三日 佐鎮大佐長
軍務局長大

アセニカウシ
ヒグニガトセウ
エツトウハグ

事務局長

電報局

1530

艦政局

軍務局



大臣宛

志自友

第課長
局員 森田

電形、船、海、見、込、ナ、キ、之、協、合、ナ、ク、佐、ト

協議、結果、明、日、午、後、電、出、シ、テ、試、シ、之、ル

第二課

七月五日午後零時五分着電

分、引、出、シ、テ、試、シ、之、ル、事、ナ、ラ、ズ、
ヤ、ラ、也、テ、置、キ、テ、シ、テ、審、査、ス、ル、ト、認、ム

海

軍務局
5.7

軍務局
5.7.5



1531

艦 7/5

(森田納)